令和２年度　学校評価総括表（最終報告）　　奈良県立桜井高等学校

教育目標	昔く　絶えず　正しく　○ 全てにわたって、いつでも、どこでも、自分にも、誰にでも、正しく、最善をつくす。　○ 何事にも、自らよく考え、よく判断し、よく実践する。 具体的目標　(1)　正しくあれ　・・・・・　確かな学力と正しい判断力・実践力を身に付ける。 (2)　健やかであれ　・・・・　若者らしく、心身ともにたくましい身体をつくる。 (3)　心豊かであれ　・・・・　自他敬愛に基づく人間関係の醸成と豊かな情操を育てる。
学校目標	◎「社会で生きる力」を育む…「自立した社会人」を目指して ●基礎的学力・技能を基にした問題解決力を身に付けた生徒を育てる。 ●対人関係力、協調性、コミュニケーション力を備えた生徒を育てる。 ●目的意識をもち、自分自身を変革する努力ができる生徒を育てる。 ◎「ともに学ぶ場」を創る…「学びの中心」として ●生徒同士が相互に学び合う、知的な学びの空間づくりに努める。 ●あらゆる活動を通して、教員個々の専門性、指導力の向上を図る。 ●保護者や地域社会との協働、連携に努め、「地域と共にある学校づくり」を進める。
総合評価	B

令和元年度の成果と課題

昨年度は「共有・協働、飛躍」を重点目標に、「互いに認め合い、支え合って、より高い目標を実現する」生徒の育成を目指して取り組んだ。具体的には、引き続きノーチャイムの実施、朝のSHRを１５分に拡張し、学校生活やを振り返り文章化することやフューチャーセンターの充実、スコラやスタディサプリの活用などに取り組み、成果を上げた。本年度はこれらの取り組みに関して、「志を高く、自己を啓き、未来を拓こう」の視点で、より一層内容を充実させることを課題とし、本年度の学校経営に反映させ、計画的に取り組む予定をしている。

本年度重点目標

志を高く、自己を啓き、未来を拓こう

具体的目標

- ○　様々なことに興味・関心をもち、自分の知識や能力の開発や伸長に意欲的に取り組むとともに、自分の意思を持って自分の未来を展望できる生徒を育てる。
- ○　物事を客観的、科学的に捉え、思考、判断、表現し、探究しようとする生徒を育てる。
- ○　夢や目標をもち、その実現を目指して日々の生活や学習の中で時間をマネージメントできる生徒を育てる。
- ○　他者とのコミュニケーションを積極的に図り、協働することを通して、より高い目標に取り組む生徒を育てる。
- ○　周囲の状況や他人の気持ちを理解し、相手の立場を想像し、配慮できる生徒を育てる。
- ○　部活動をはじめさまざまな活動に参加し、集団や社会に貢献する意義を理解し、積極的に貢献する姿勢と意欲をもつ生徒を育てる。
- ○　心身ともに健全で、安全教育や食育を通して安全や健康を自分で管理し、将来にわたり維持増進しようとする生徒を育てる。

		具体的方策・評価指標（昨年度の数値）	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
重点目標の実現	視点	昨年度同様に学校生活の充実だけでなく、学力の向上や進路実現にも役立つように様々な情報交換の場を設ける。また、フューチャーセンターのより有意義な活用のしかたを生徒会役員を中心に考え、改善を図る。 A　フューチャーセンターで情報を得たり、意見や情報を書いたりしたことがある。50%（27.5%） A　フューチャーセンターが役に立っていると感じる生徒　60%以上（59.0%）	D B	C	B	本年度の生徒会活動は、これまでのところ、コロナウィルスの感染不安に伴い、フューチャーセンター座談会を開催することができず、また、球技大会や文化祭に関わる対応を最優先して行ってきたため、フューチャーセンターの活用のしかたについて本格的に検討するという段階に至らなかった。そのような状況の中で、文化祭の一環として行うテレワーク動画の作成に使う曲の募集などは、フューチャーセンターに投票箱を設置し、全校生徒の希望が選曲に反映されるようにした。また、学校生活に関して要望や質問がある生徒がそれを書いて提出できるような用紙と箱もフューチャーセンターに設置し、フューチャーセンターが生徒会と生徒の情報交換の１つの場となっている。12月のリーダー研修会ではフューチャーセンターのもっと有意義な活用のしかたについて話し合いを始めており、この話し合いは今後も継続し、フューチャーセンターが学校の活気の源の１つとなれるよう考えていきたい。なお、「フューチャーセンターで情報を得たり、意見や情報を書いたりしたことがある」生徒は全体で22.1%、「フューチャーセンターが役に立っている」と答えた生徒は52.0%だった。	昨年度まで定期的に行っていたフューチャーセンター座談会、またはそれに変わるものを次年度は実施していきたい。また、本年度のうちに、来年度に向けて、フューチャーセンターの活用のしかたについて生徒会の生徒たちに考えさせながら、よりよい活用法を本格的に検討する必要がある。また、県外でフューチャーセンターがある高校や大学との交流なども進めることで、互いに刺激となり、新しいことに挑戦するきっかけとなるようにしたい。	○新型コロナウィルスの影響により、全ての面において活動が制限され、たいへんな現状だと拝察いたします。しかしながら学校全体の取組は素晴らしいと思います。より一層の充実した取組を望みます。今後それぞれの目標に向かって成果はもちろんのこと、課題等の改善に力を注いでいただきたいと思います。
		生徒の社会参加活動の機会を増やし、地域社会への関心を高め、連携を深める。 A　生徒による施設訪問、交通安全啓発活動等を５回以上実施（15回） A　様々な活動を通して主体的な社会参加活動の意欲が向上した生徒　70%以上（54.3%）	A C			コロナ禍により例年行っていた活動の多くが中止となった。２学期より感染防止対策を行いながら実施している。 生徒による施設訪問、交通安全啓発活動等への参加　５回 主体的な社会参加活動の意欲が向上した生徒　45.5%	感染防止対策を第一に考えながら、また他の団体との連携・調整をしながら、活動を組み直していく。	
		社会の出来事に興味関心をもち、様々な視点でものごとを捉えることができる生徒を育てる。 A　社会の出来事に興味関心があり、様々な方法でニュースに触れることが多いと答える生徒　70%以上（63.1%）	B			「社会の出来事に興味関心があり、様々な方法でニュースに触れることが多い」と答える生徒が61.4%（１年：54.1%　２年：60.4%　３年：69.9%）である。昨年同時期の調査より、微減している。	３年前から朝のＳＨＲにおいて、週に一度は「学校生活で感じたこと」や「社会の出来事で感じたこと」などについて考え、文に書き、ファイリングするなどさせてきたが、今年度はコロナ禍の影響で十分な時間がとれなかった。次年度はできるだけ早く、このような取組を落ち着いてできるようにしたい。	○桜井高校の生徒さんには正月の奉仕等をしていただいておりますが、非常に礼儀正しく、笑顔で参拝者に接している姿は素晴らしいものがあります。これも偏に日頃の教育の賜物だと思います。また、地域社会（美化清掃等）にも貢献されておられる新聞記事を度々見ます。これからも積極的に奉仕活動をしていただきたいと思います。
	思考	人権教育ホームルーム活動等において、生徒が自他ともに尊重する意識を高め、積極的に活動できるような展開を考え、教材を作成する。また、講演会などを通して命の大切さについて考えさせる。 A　「人権や命について学ぶことが多かった」と答える生徒 80%以上(92.4%)	A	A	B	LHRでは体験活動や視聴覚教材、生徒間の話し合いを通じて人権意識を高めることができた。また、講演会等を通じて「命」について深く考えさせることができた。新型コロナ差別防止の啓発を進める必要もある。 A　「人権や命について学ぶことが多かった」と答える生徒　92.8%	教員の力量を高めるために、事前研修の充実や校外研修への積極的参加を促す。また、社会の変化に対応して新しい教材の開発に努め、LHRでの展開につなげる。	
		日常生活の中で、周囲の状況や相手の気持ちを理解しつつ、自分の意志をもって行動できる力を養う。 A　人より先にあいさつをすることを心がけ、実践している生徒 90%（82.3%）	B			「人より先に挨拶をすることを心がけ、実践している生徒」と答える生徒（昨年度82.3→）：85.1%　あいさつの出来る生徒が増えていく半面、あいさつを声に出して返すことができない生徒もいる。あいさつを返してくれない教員がいるというアンケート記述もある。	いつでも、どこでも、何度でも、気持ちよく、心を込めて「あいさつをする」ことを働きかける。自らも実践する。	
	行動	「自己管理能力」を身に付けた生徒の育成を図る。あらゆる場面でメモすることを徹底し、１週間の振り返りを行い、次週の計画をたてられるようにする。 A　「スコラ成長実感度アンケート」で、１年生「使う前と比べて、１週間の振り返りをするようになった」と答える生徒　60%以上（47.2%）	C			「スコラ成長実感度アンケート」(年１回の実施)結果 ・１年：「使う前と比べて、１週間の振り返りをするようになった。」 ・29.0%(前年47. 2%)　<全国平均47.6%>	・「スコラ」に関する取り組みは、クラスの独自性を尊重しておまかせしている。昨年度「スコラ」のあり方について検討した結果、今年度は１年生全員と２、３年生は希望者のみが使用することとした。コロナ禍の臨時休校措置で、「スコラ」の定着がはかれなかったことが影響してか、１週間の振り返りができている生徒が少ない。次年度も今年度の体制で「スコラ」の活用を通じて、「自己管理能力」を身につけることを生徒たちに求めていきたい。また、進路に関わって、ポートフォリオの導入がすすめられる中、進路指導部が行っている、１週間の振り返りのために必要なものとして「スコラ」の定着をはかりたい。ただ、新2年生の購入希望者が2名であり、情報化社会を支えるハード面及びソフト面の充実により、「スコラ」の活用を考える時期ものがもしれない。	
		進路対策講座やWeb講座「スタディサプリ」を利用した学習習慣の定着を図り、強い意志で継続させる。 A　スタディサプリは活用できたと思う生徒　50%以上（44.7%）	B	B		「スタディサプリは活用できたと思う」と回答した生徒は　47.0%（１年：51.2%　２年：39.5%　３年50.3%）であった。昨年度と比較して、やや多い目の回答となっている。	年度当初の自宅待機期間中にスタディサプリの配信機能を利用したことから、例年よりは活用できているように感じる。来年度も配信機能を有効に利用したい。	
		日々の生活や学習の中で時間をマネージメントできる力を養う。 A　チャイムの有無にかかわらず、自分から動くことを心がけ実践する生徒 90%(87.5%)	A			「チャイムの有無にかかわらず、自分から動くことを心がけ実践する生徒」 （昨年度87.5→）：91.0%（１年：89.8　２年：90.5　３年：92.6）学年とともに定着していくことがわかる。ただし、チャイムがないと行動できないという意見もある。	本校では、ノーチャイムを実施している。自分で時間を意識して、一人一人が自ら行動できるようにしていく。折に触れ先生方や生徒に、日々の心がけと継続的な実践が『自分を守る』ということに繋がっていることを伝えていく。	
学習指導	授業改善と指導力の向上	シラバスや授業アンケートを活用しながら、個々の教員が指導方法や指導内容の改善・充実を図るとともに、研究授業週間を設け、全教員が授業公開を行い、指導力の向上を図る。 A　「授業アンケート」における生徒の授業満足度 平均85%以上 （全体：85.7%　１学期：84.9%　２学期：86.4%） A　「卒業アンケート・学年末アンケート」における学力向上実感度　平均75% （全体：72.0%　１年：68.3%　２年：69.2%　３年：78.4%）	A B	B	C	「授業アンケート」結果 ２学期（１学期実施せず） ・全体　89.7%　1年：91. 0%　2年：87. 6%　3年：90. 3% 「卒業・学年末アンケート」結果 全体：　72.3%　1年：　72.3%　2年：　67.1%　3年：　77.5%	・本年は、「生徒の授業満足度」は目標数値に達した。今の状況を維持しながら、公開・研究授業週間を軸として、より一層の指導方法・内容の改善充実の推進を図りたい。「学力向上実感度」は、第3学年が目標数値に到達したが全体としては昨年の数値を下回った。再来年度の「観点別評価」完全実施に伴い、来年度より「観点別評価」をする上で、いかに生徒個々に応じて「評価」を返すことができるか考察し、実行する体制を確立したい。	
	家庭学習習慣の定着	「小テストを実施する」、「適正量の課題を課す」など生徒に適正な負荷をかけることに加えて、「スタディサプリ」を活用させることで、予習・復習の指導を徹底する。 A　１日平均60分以上自主的な学習をする生徒 75%以上 （全体：52.7%　１年：45.7%　２年：32.6%　３年：80.1%）	C	C		「学校生活意識調査」結果 全体：53.5%（１年：51.0%　２年：40.4%　３年：68.8%）	全体では昨年より数値は上がった。１・２年生の数値は昨年を上回った。3年生は前２年間は８割を超えていたが、コロナ禍での進路情報の不明確さが影響してか落ち着いて学習ができなかったのではないだろうか。次年度もさらに、日々の家庭学習が定着し、学力向上が見られるように取り組んでいきたい。	○家庭学習の定着に関しては、中学校にも大いに責任があると考えますが、「個別最適な学び」が提唱されている中では、より取組が必要であると考えます。よろしくお願いします。
特色あるコース	書芸コースの充実	早期から、より広く、より深い専門的な学習に取り組み、専門科目へと発展させる。卒業書作展においては３年間の集大成の場であるとともに、２４期生として、３年間の学習への深い想いと強い意思を持ちながら、歴史と伝統を踏まえ、集団としての力を結集するとともに、各自の表現目標に基づいた作品制作を行い、充実した展覧会を行う。 A　書芸コースで学んだ満足度　95%以上（87.9%）（ほぼ満足を加えると、100%） A　卒業書作展への満足度　95%以上（84.8%）（ほぼ満足を加えると、100%）	B B	B	B	１年生の「書道Ⅰ」（３単位T/T)で「漢字（２単位）」と「仮名（１単位）」の学習を年間を通して固定し７年になる。３名の教師が指導にあたれる利点を生かし、年々内容も充実し、２年次以降の専門科目にその学習効果が表れている。特に「仮名」の学習においてそれが顕著である。専門科目の更なる充実を模索しながら進めている。卒展は３年間の学習の成果を発表する場であり、毎年「有終の美を飾る」ことを目標に掲げて制作に励んでいる。本年度は、コロナ禍で卒業書作展が開催できるか、また作品作りや表具ができるか不安ではあったが、約７００名の来場者を得て、成功裏に終えることができた。来場された方々は、高校生離れした作品の出来映えに大変驚かれるとともに、生徒たちの清々しい立ち居振る舞いにも大いに感心されていた。今年も表具代が値上がりをした。年々家庭の金銭的負担が増えているのが現状である。 A　書芸コースで学んだ満足度　95%以上（82.4%）（ほぼ満足を加えると、100%） A　卒業書作展への満足度　95%以上（91.2%）（ほぼ満足を加えると、100%）	１年生は、コロナ禍で学習の遅れが心配されたが、幸い28名という少ない人数での授業・実習となり、進度の方は例年と変わらない程度に回復してている。専門的な学習をより進めるため、教材の精選、効果的な指導方法の在り方などを模索しながら進めていく。 集大成である卒業書作展に向け、早期からさまざまな場面で書芸コースの一員としての意識付けを行っていき、とりわけ専門科目の授業を通して、知識、技法をより一層高め、更なる充実を図っていく。	
	英語コースの充実	イングリッシュキャンプや修学旅行などを通して生きた英語に触れ、国際的な視野を身につけ、相互理解の機会を充実させる。言語活動を通して論理的思考力・表現力を向上させ、スピーチコンテストなどの校外での英語コミュニケーション活動への積極的な参加を奨励する。また、GTECにおいては、１・２年生は年間２回（１回目３技能アセスメント版、２回目４技能アセスメント版）、３年生は１回（４技能検定版）を受験させることで実践的な英語コミュニケーション能力を測定し、英語学習へのモチベーション向上を図る。 A　１年生　CEFR-J A2.2 以上　15人以上（13人） A　２年生　CEFR-J A2.2 以上　30人以上（30人） A　３年生　CEFR-J B1.1 以上　15人以上（14人）	― C	C		新型コロナ感染症拡大のため、イングリッシュキャンプや修学旅行の中止など、英語コースとしての特徴的な活動が大幅に制限された。日々の授業だけでは、有意義で発展的な英語学習活動が十分には行えなかったのが現状である。GTECについては１・２年生は２回の計画であるが、これも２回目が３学期にずれ込み、結果はまだ出ていない。１回目では、１年生は３技能版を受検し、昨年度の目標値を参照すると550点以上取得23人以上に対して今年度は10人である。２・３年生については４技能版を受検し、今年度の目標値に対し、２年生は20人、３年生は11人と、いずれも目標値に至らなかった。	コミュニケーション活動の不足を補い、英語学習に対するモチベーションの向上を図るため、感染症予防に注意を払いながら、日々の授業の中においてのコミュニケーション活動を増やし、ALTの活用も工夫したい。授業外でもイングリッシュキャンプに代わるような活動を検討し、生徒が意欲的、自発的に英語学習に取り組む工夫をしていく必要がある。	○各種アンケート結果を拝見し、子どもたちの思いがわかり、少し安心しました。学年が進んでいくにつれ、子どもたちの学校に対する思いや学習に対する前向きな姿勢、自立している状況が上がっている点については非常にうれしく安堵しました。このような結果になっているのは、本人の頑張りは勿論ですが、教員の皆様、学校関係者の皆様のお陰であることは間違いなく、感謝申し上げます。
	コースの広報	書芸コース・英語コースの魅力をより高め、ホームページやパンフレットを用いて積極的に広報活動を行う。	B	B		コロナ禍により高校説明会、高校訪問等の機会が大幅に減ったが、開催される場合は積極的に、両コースの魅力を伝えている。教師による中学校訪問を行い、例年本校開催の学校説明会において参加者に配布していた学校案内パンフレットを各中学校に配布した。E-オープンスクールを実施し,のべ７４０名の視聴申込を受け付けた。	E-オープンスクールのＱ＆Ａに、両コースに関する質問が寄せられるので、それにわかりやすく回答し、視聴している中学生の関心を呼び起こす。今後も学校説明会などの機会を利用し、両コースの宣伝を行う。また、マスコミに対して積極的な取材依頼を行っていく。	
読書指導	自主学習をサポートする環境づくりと読書習慣の定着	多目的な図書館利用の充実をを図る。特に授業での利用を推進する。あわせて本の貸出数の増加を目指す。 A　図書館の利用者数 7,000人以上（7,295人）、本の貸出数2,000冊以上（2,241冊）、図書館を貸出・閲覧業務以外で使用した回数50回以上（99回）	D	D	D	新型コロナ感染症の蔓延の影響により、貸出活動を制限するにいたった。この状態が長期化する用であれば、貸し出し本の滅菌対策、閲覧室の本格的な感染防止パーティション器具の導入などの必要がある。 図書館の利用者数 2756人、本の貸出数 1288冊、図書館を貸出・閲覧業務以外で使用した回数 32回	感染防止の手立てを工夫して、閲覧室利用の安全性を高める。費用のかからない貸出本の消毒方法を模索する。	

評価項目	目標(評価小項目)	具体的方策・評価指標（昨年度の数値）	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
生徒指導	基本的生活習慣の確立	自分一人でも継続的に実践するという強い意志を育むとともに、時間を守り自律的な生活習慣を身につけた生徒を育てる。 A　「いつも授業の開始と終了時の挨拶（起立・礼）を自ら姿勢正しく行った」と答える生徒　85%(79.4%)	B	B	B	「いつも授業の開始と終了時の挨拶（起立・礼）を自ら姿勢正しく行った」と答える生徒（昨年度79.4→）83.1%　生徒の自己評価は比較的高いが、各授業で丁寧に指導し続けることが大切である。	服装を正し、心を込めて礼ができるように促したい。今年はとくに、対面で授業が出来ることの喜びを感じ、一人一人に自律的な行動が出来るよう働きかけていく。	○各種アンケート結果、資料によると、生徒たちは先生方の思いを受けとめ、しっかりと成長されているように感じます。エ夫して実施された体育大会の楽しそうな生徒さんの様子を拝見し、とても安心しました。コロナウィルスの終息まで色う少し時間がかかると思いますが、今後ともよろしくお願いします。
		自立した社会人を目指して、自発的にルールやマナーを守り、社会人の一員としての基本を身につけた生徒を育てる。また、他人の気持ちを理解し、配慮できる生徒を育てる。 A　トイレのスリッパは必ず履き替えると答える生徒85%(81.4%) A　スリッパが乱れていたらきちんとそろえると答える生徒 80%(67.2%)	B			「トイレのスリッパは必ず履き替える」と答える生徒（学年末アンケート81.4）：83.0% 学年が上がるにつれ、スリッパを履き替えない生徒が多くなる傾向がある。	生徒一人一人が公共心を意識し、自ら実践できるように促したい。次に使用する方のことを考えず横着なスリッパの履き方をする生徒がいることを踏まえ、他人の気持ちを想像する機会をもたせたい。	
			B			「スリッパが乱れていたらきちんとそろえる」と答える生徒（学年末アンケート67.2）：67.0%	次に使う人を思い揃える。先を想像することにつなげていく。また、物を大切にする心を育む。	
	教育相談の推進と充実	生徒が、自らの悩みを客観的に捉え、自ら考え、適切に対処できる力を育成するとともに、相談できる環境を整える。 A　「悩みを相談する場所があるまたは人がいる」と答える生徒　85%以上（80.6%）	A	A		「悩みがあるとき、悩みを相談する場所があるまたは人がいる」と答える生徒（82.0→78.6→80.1→80.6→）：85.7% 今年度は、アンケートを5回実施して頂き、生徒と面談する機会も多かった。	種々のアンケートの結果や面談や指導から生徒を適切にSCにつなげる。また、生徒支援についての態勢をより改善し、県との連携を深める。生徒の現状からストレスマネジメントの機会を作る。	
キャリア教育	自らの将来を考える意識の向上	各学年における進路行事やLHR,「総合的な探究の時間」などを通じて、自己を振り返り、さらには自らで変革し、将来を展望する機会を増やす。特に１年生は類型選択が進路を見据えた選択となるように支援する。 A　「進路や将来の仕事、生き方について考える機会が多い」と答える生徒　85%以上（82.9%）	A	A	A	「進路や将来の仕事、生き方について考える機会が多い」と回答した生徒は91.2%（１年：85.0%　　２年：94.6%　３年：93.9%）で昨年度（82.9%）からは増加した。	新型コロナウイルスの影響で、進路に関する集会がほとんど開催できなかった割には、機会が多いと答えてくれた生徒が増えている。情報が少なかった分、かえって自分の進路を見据えてくれたのかもしれない。今の高い意識をこのまま維持していきたい。	
進路指導	進路情報の提供の充実	ホームルームや進路説明会等において個々に応じた適切な情報を提供するとともに、キャリアデザインルームの活用等を通して、自分の将来を主体的に考え、夢と目標をもって進路実現に向けて努力する生徒を育てる。 A　「進路行事（説明会やガイダンス等）やCDRで自分の進路に関する情報を得ることができた」と答える生徒　70%以上（71.4%）	B	B	B	「進路行事（説明会やガイダンス等）やCDRで自分の進路に関する情報を得ることができた」と回答した生徒は69.5%（１年：61.5%　２年：67.1%　３年：79.9%）で昨年度（71.4%）からは減少した。新型コロナウイルスの影響で進路説明会やガイダンス等が思うように実施できなかったのが原因と思われる。	毎週金曜日に「GoodBadNextタイム」を設け、一週間の自分を振り返り、その中から今の問題点に気づかせる取組を取り入れた。今年度は生徒の書いた内容に目を通してくださる担任が増えているように思う。今後の成果をみたい。	
人権教育	自主活動の充実	人権委員の活動として全員参加のFreeや広報紙の発行を行うとともに、人権学習会や調査活動、募金活動等に広げていくことで人権意識の深化を図る。 A　実施回数　各学期２回以上（各学期２回）	B	B	B	委員会として、様々な問題についての理解や生徒に考えさせる活動ができた。募金活動は３月実施予定である。 A　実施回数　２，３学期のみ２回以上実施	生徒が自主的に取り組める内容の工夫に努める。また、委員以外の生徒へも広げられるようにする。	
生徒会活動	各行事における生徒会活動の活性化と内容の充実	生徒たちが率先して主体的に活動できるよう学校行事や部活動を計画し、行事や部活動の質を高める。 A　部活動に積極的に参加すること80%以上（71.8%） A　学校行事で良い思い出を作ること80%以上（90.4%） A　ボランティア活動に参加すること80%以上（67.9%）	B	C	C	球技大会や文化祭は、コロナの影響で規模を縮小したり内容を大きく変えたりしたが、その範囲内で生徒たちは生き生きと取り組んでくれたと思う。ボランティア清掃活動も、すべての学年を対象に実施することはできず、内容も校内清掃に切り替えたときもあったが、毎回100名を超える参加者が集まり、校内外の清掃を行うことができた。なお、「部活動に積極的に参加すること」に満足していると答えた生徒は全体で74.6%と昨年度より多く、「学校行事で良い思い出を作ること」については全体で79.9%（１・３年は90%前後、２年は62.2%）、「ボランティア活動に参加すること」については全体で68.7%（２・３年は70～80%以上、１年は54.5%）となった。	本年度は文化祭で現２年生がステージ活動をすることができなかったので、次年度は新３年生が少しでもステージに参加できるように考えたい。また、ステージや展示を含め、全体を通じて発表のクオリティについてもより高いものを求めていければよいと考える。ボランティア活動については、これまで長く続けてきた伝統ある河川敷の清掃を今後も続けていきたい。	
			B					
			B					
	リーダー育成及び生徒のコミュニケーション能力の向上	学校は「集団生活の場」であり「みんなで高め合う場」であることを生徒会役員に深く自覚させ、より規律ある学校生活をリーダーとして皆に促すとともに、互いにコミュニケーションを取りながらグループ間の関係を調整しつつ、全体を円滑に進めていくことができるファシリテート能力を養う。 A　リーダー研修会　４回（３回）	D	D		生徒会役員は真面目な態度で生徒会活動に取り組み、メンバー同士で互いによい刺激となっている。本年度はコロナのために実施できないこともあったが、その分、文化祭のテレワーク動画や校舎の装飾など、従来は行っていなかったことを新たに考える機会も生まれ、そこに例年以上の活発な意見やアイデアの交流があった。そして、それを具体的な計画に変え、準備や実施に漕ぎつける経験をしたことは、生徒会役員にとって貴重な経験になった。リーダー研修会については、冬と春の２回実施した。本来なら４回行い、生徒会役員だけでなく、各委員会の委員長や副委員長も交えての研修会も少なくとも１回は開く予定であったが、本年度は生徒会役員だけによる研修会を２回行うにとどまった。	次年度は、各学期に１回以上の研修会を行う。また、回数だけの問題ではなく、生徒会役員自身が桜井高校をよりよくしたいという強い思いをもって活発に意見の交流を行い、生徒会として学校や全校生徒や地域のためにできることを考え、実際のアクションにつなげていけるような研修会にしたい。そのような研修会や日頃の活動を通じて、生徒会役員がさらにもっと成長していけるよう、研修のあり方や方法についてさらに工夫が必要である。また、昨年度までのように各委員会の委員長や副委員長を交えて建設的に議論できる場も設けたい。	○今年度は１年間コロナ対応に追われたのではないかと推察します。そのため、生徒会活動が計画的にできず、リーダー等の育成等で評価Dとなっています。次年度もコロナの影響があると思いますが、その中でできる活動、並びにコロナ禍であるがゆえにできる活動の想像をお願いします。
健康教育	健康管理能力の育成	生徒が、自ら健全な心身の自己管理ができるよう、生徒個々や学校課題に応じた保健情報等を生徒・保護者に積極的に提供し、適切な指導を行う。 A「健康に関する指導が適切」と答える生徒　85%以上（85.4%） A「健康に関する指導が適切」と答える保護者　95%以上（94.0%）	A	A	A	健康関係指導［医療受診勧告、色覚検査、熱中症予防啓発活動、心肺蘇生法指導、保健啓発活動（保健だより）］の実施、及び感染症予防啓発活動やそれに関わる人権啓発を図り、一定の成果を得た。１学期健康に関する指導が適切かに対しての生徒アンケートから82.8%が昨年度の同時期より良い肯定的な答えをしている。（昨年度77.8%） 「健康に関する指導が適切」と答えた生徒 86.0%、保護者94.0%	心身ともに自己管理が出来るよう、生徒の状況に合わせての呼びかけや情報提供を引き続き行う必要がある。また本年度は、コロナを含む感染症に関わる指導を積極的に行っていく必要がある。	
			A					
		健康について、生徒が自らの健康状態を客観的に捉え、自ら考えて健康管理に努める実践力の向上を図る。 A　年間保健室来室件数800件以下（2/29まで843件） A　インフルエンザ感染による出席停止生徒数65人以下（2/29まで70人）	A	A		１学期（8/31まで）の保健室来室件数は129人（昨年度255人）であった。コロナによる在宅学習期間があり、昨年度との数値の比較はできないが、２学期以降はケガなどの外傷や体調不良等の来室に加え、精神的な部分での来室が多い。生徒が抱えていることを話ですることと言う面から見れば、保健室の役割は大きく、数だけの評価でははかれない。ただ、できる限り自ら課題解決できる力を向上させることが必要であり、その結果、精神的な部分での来室が減少することが望まれる。 保健室来室件数(2月２５日まで)５３０件　　インフルエンザ感染による出席停止生徒（2月２５日まで）０人	生徒自身の感染症への意識が高かったのかそれ以外の理由だったのかは分からないが、例年懸念されているインフルエンザ感染による出席停止がなかった。しかし来年度以降も続めることなく感染症予防のため、適確な啓発活動等を実施し、生徒が自らの健康管理に努める実践力向上を進める。また体調面での来室に加え、心的な部分での来室も増加傾向にあり、今後、教育相談等の他の分掌・係と連携しながら対応すべきである。	
			A					
安全教育	安全・安心に対する自己管理意識の向上	登下校指導や交通安全講習会等を充実させ、交通ルールやマナーを自律的に遵守する生徒を育成する。 A　「日常的に交通ルールやマナーを遵守し実践している」と答える生徒 95%以上（97.1%）	A	B	B	「日常的に交通ルールやマナーを遵守し実践している」と答える生徒（90.9→93.1→94.0→97.1→）：97.2%　本年度も警察、自動車学校等連携して実施できた。	登下校指導、交通安全講習会、自転車通学生集会を実施し、緊張感をもって行動できるようにする。地域の方々、近隣学校、警察等さらなる連携を深める。	
		避難訓練等を通して防災意識を高め、自分で自分の身を守る力を育てる。 A　「安全や事故防止の指導が適切」と答える生徒 95%以上（85.9%）	B			「安全や事故防止の指導が適切」と答える生徒（82.2→79.5→86.1→85.0→）：88.0% コロナ禍であるが、避難訓練や初期行動訓練ができた。	種々の集会やＨＲの機会を設け、生徒、保護者、教職員の防災意識を高める。	
	学校安全体制の確立	教職員の危機管理意識を高めるとともに、教職員一体となって安全教育に取り組む。 A　危機管理体制が整備され、非常時に教職員が適切・迅速に対応できる。100%（84.3%）	B	B		「事故、事件、災害等に対応する危機管理体制が整備され、非常時に教職員が適切・迅速に対応できるようになっている。」（ 82.0→84.3→）82.6%	日々の安全確認と防災、防犯に対する意識高揚に努める。防犯についても検討する。	
環境美化	自主的な美化活動の推進	全生徒が清掃活動を通して勤労の尊さを学び、自分たちの学校を大切にする気持ちをもたせる。 A　校内を美しく保つことを意識している生徒 90%以上(90.2%)	A	B	B	美化委員による早朝清掃や部活動単位での主体的清掃活動に取り組んだ。 生徒の美化意識は、日々の清掃活動が充実していたことで十分感じらる。 「校内を美しく保つことを意識している」と答える生徒は94.1%（昨年度90.2%）	ゴミの分別のポスターを作成するなど、生徒の美化意識の強化し、資源を大切にする心を育む。 校内へ持ち込んだものについての持ち帰りを徹底し、ゴミの減量化を図る。食堂利用マナーについて啓発に努める。	
		環境美化を啓発するポスターを作成・掲示し、トイレ等の美化意識の向上を図り、実践できる生徒を育てる。 A　「校内の環境がいつも美しい」と答える生徒85%以上(80.6%)	B			ゴミの分別等について、定期的に啓発し、生徒の意識向上に努めた。美化委員に食堂のゴミ箱の点検を行ったが、個々の生徒の自主的な美化活動を働きかける活動が必要であった。 「校内の環境がいつも美しく整備されている」と答える生徒は80.0 %（昨年度80.6%）		
開かれた学校づくり	学校情報の提供と成果の発信	広報活動を積極的に行うことで、本校の教育活動を広く紹介し、県民の本校への関心を高める。 A　新聞等のマスメディアで取り上げられた本校の教育活動　30件以上（28件）	c	B	B	報道資料を積極的に配布しているが、コロナ禍で行事の数が減ったこともあり，例年より激減した。 教育活動に関する取材等：21件（新聞16件　テレビ5件） E-オープンスクールへの申込件数がのべ740件あり、中学生への周知はよくできた。	次年度以降も効果的な報道資料の作成と配布に努める。 次年度もE-オープンスクールの配信をしていく。	
		WEBページを通じて主に保護者にむけて必要な情報を迅速に提供する。HP更新を各分掌・部活動等に普及させる。 A　「桜井高校のホームページを見ている」保護者50%以上(31.0%)	B			新型コロナ対策関係の情報を適時要請に従い更新した。今年度になり、CMSで扱えるファイルのサイズが小さくなり、新たな工夫が必要になっている。 コロナ禍での情報収集の必要から、ホームページを見る保護者が増えた。保護者４５％	CMSの扱えるファイルやファイルサイズの拡大を県の担当機関に要望する。職員に対するCMS更新の啓発を地道に続ける。	
教職員の働き方改革	勤務時間管理の徹底	業務の適正な配分と効率化により、全教職員の時間外従事時間の削減を図る。 A　時間外従事時間が月４５時間の教職員ののべ人数　20人以下 B　時間外従事時間が年３６０時間の教職員の人数　　0人	D	D	D	時間外従事時間が月４５時間の教職員ののべ人数は７４人（１月末） 時間外従事時間が年３６０時間の教職員の人数は１３人（1月末） 昨年との比較はできないが、コロナ禍対応のための業務が増えたことも一因と考えられる。	来年度もコロナ禍対応のための業務量は減らないと考えられる。部活動を含む業務の適正な配分と効率化を進め、時間外従事時間の削減をはかっていく。	
	健康障害の予防	業務全般について関係職員が協働して対応する体制をつくり、職場環境の改善を行い、健康障害の予防を図る。 A　ストレスチェック集団分析における総合健康リスク77以下（77）	B			ストレスチェック集団分析における総合健康リスク８９であった。昨年と今年の受験者数が異なる（昨年４４、今年５４）であるため、単純比較はできないが、数字的にはリスクの数値が高くなった。ストレス要因となる「仕事の量的負担」が大きいという分析結果が出た。	行事の精選・見直し、業務内容の見直しを行い、仕事の量的負担の緩和を図る。カウンセリング窓口を周知し、教職員が受けやすい雰囲気をつくっていく。	
経費の節減	学校運営経費の効率的な執行	社会の動向を踏まえ、省エネ等に努める。 A　光熱水量3%減（２%）	D	D	D	４月～1月の全体の光熱水量全体の平均は昨年度より１%増となった。コロナ禍で、昨年度と同じような比較にはならないが、内訳は、電気使用量１%増、水道使用量２５%減、ガス使用量２８%増となった。 今年度は猛暑や厳寒であったことに加え、コロナ禍での感染防止対策のための教室の換気により冷暖房の効率が悪くなったことから、電気使用量及びガス使用量が嵩んだが、やむを得ないことであった。 水道使用量の減については、４・５月の在宅教育期間中や臨時休業期間中に利用しなかったことによるところが大きい。	コロナ禍の長期化が予想されることから、引き続き感染防止対策を行いながらの冷暖房の使用量の増加はやむを得ないが、経費の効率的な執行の観点から、光熱水費以外の経費（消耗品など）についても、教職員の協力と理解を得ながら、学校全体で節減に向けて取り組んでいく。	○光熱費については、このような非常時であるので、ある程度は仕方ないのではないかと考えます。
第１学年	学習意欲の育成	基礎・基本を大切にした学習を定着させ、家庭での予習・復習の習慣を確立させる。 A：１日平均60分以上自主的な学習をする生徒 70%以上（45.6%）	C	C	C	1日平均60分以上自主的な学習をする生徒　51.0%	家庭学習の習慣定着のため、様々な面からサポートが必要だと思う。 類型選択・選択科目には、早い段階でのアプローチが必要である。。	
	規範意識・社会性の育成	基本的な生活習慣や規範意識を身に付け、けじめある生活を確立する。部活動や学校行事への参加を通じて、人間関係の大切さや集団活動の意義を理解させる。 A　年間遅刻総数200回以内（553回） A　生活点検時違反者学年総数 20人以内（96人） A　ボランティア参加生徒 50%以上（40.9%）	C	B		年間遅刻総数200回以内(274回) 生活点検時違反者学年総数 20人以内（21人）　その他の指導　靴下35人、シャツ3人、スカート折り曲げ3人、つめ長い83人 ボランティア今年度コロナのため中止	基本的な生活習慣の徹底が出来なかった。なぜ必要なのかを理解させたい。 日時・時間の締め切りなどをきちんと守らせるため、日頃の取り組みをしっかり見守る。 周りの人へのきくばりができる生徒を、育成していく。	
			B					
第２学年	自主的な学習習慣の定着と進路目標の決定	自ら計画し、強い意志をもって学習する習慣を定着させる。 A　１日平均60分以上自主的な学習する生徒70%以上　（32.6%）	D	C	C	１日平均60分以上自主的な学習する生徒　40.4%	在宅学習期間の影響で家庭での学習習慣がいる。課題等を適切に出しながら指導していく。 自分の将来をきめきれていない生徒が多い。個人相談を中心にアドバイスをしていく。	
		自分の将来に対する意識の向上に努める。 A 自分の将来の目標をもっている生徒 80%以上（75.5%）	B			自分の将来の目標をもっている生徒　76.0%		
	中堅学年としての意識の向上と自主的な行動の育成	中堅学年としての自覚を高め、修学旅行や学校行事・部活動、社会活動等を通して、集団や社会に積極的に貢献する姿勢と意欲をもつ生徒を育てる。 A　充実した学校生活が送れた生徒　95%以上（84.0%） A　修学旅行の満足度　90%以上（94.0%）	B	B		充実した学校生活が送れた生徒　75.4%	コロナ、在宅学習、進路の不安等、様々な問題で不安を抱えながら学校生活を送っている生徒が多い。HR、学年集会、進路等で目標を持たせる。	
第３学年	自己の進路を実現させ、自立した社会人を目指す	目的意識をもち、自分自身を変革する努力をすることにより、自己の進路を実現させ、自立した社会人を目指す。 A　１日平均60分以上自主的な学習する生徒　80%以上（80.1%） A　希望進路を実現させることに「満足している」生徒　90%以上（85.9%）	B	B	B	・１日平均６０分以上学習する生徒６８．８% ・希望進路を実現させることに「満足している」生徒８９．３%	・目的意識をもたせ、強い意志で最後まで諦めず自己の進路を実現させるよう、入学当初より取り組む。	
			B					
	最終学年としての充実	最終学年として自らの活動に誇りを持たせ、学習活動や学校行事等に積極的に取り組ませることにより、充実した高校生活を送り、将来の夢や目標をもたせる。 A 桜井高校に入学して「とても良かった」と思う生徒　70%以上（66.8%） A 自分の将来の目標を見つけることに「満足している」生徒　90%以上（86.7%）	B	B		・桜井高校に入学してとてもよかったと思う生徒５８．９% ・自分の将来の目標を見つけることに満足している生徒　８５．５%	・入学して良かったと思う生徒は９４．３%である。充実した学校生活であったと思われるが、進路実現に向けさらに取り組む必要がある。	
			B					

A：達成割合：１００%以上　　B：達成割合８０～９９%　　C：達成割合６０～７９%　　D：達成割合５９%以下